

村田 捷司さん (手稲本町在住)

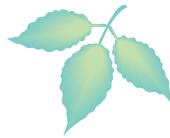
手稲本町にお住まいの村田さんは、昨年に町内会で行ったダンボール箱による生ごみ堆肥化の講習会をきっかけに堆肥を作り始め、今年初めて出来上がった堆肥を、花などの栽培に利用しようと考えています。



予定では、ご自宅の庭と、町内にある花壇に堆肥を入れ、花などを栽培するそうです。実は、村田さんが堆肥を作り始めた頃は、なかなかうまくいかなかったそうです。作り

始めてしばらくすると、ほぐれているはずの原料が、なぜか固まり始め、3カ月後頃には、ごろごろとした塊になり、失敗してしまいました。

そこで村田さんは、以前受けた講習会の講師であった区役所の職員からのアドバイスを受けて手順を少し変えた結果、約1カ月後、その塊を見事に堆肥に変身させたそうです。



村田さんは「実際に堆肥化を始めてみて思ったのは、やはりある程度手間がかかった、ということなんです。特に私は、果物や野菜などの皮を細かく刻んでダンボール箱に入れていましたので、その分、余計に手間がかかっていました。後で聞いたところ、生ごみ

を細かく刻むことは、必須ではなかったそうですが」と、始めた頃の失敗を話していました。

「でも、生ごみから作った堆肥は、土をよく肥やすと聞いています。これから、マリーゴールド、ペチュニア、キンギョソウ、サルビアなどの花を植えてみようと考えていますので、どのように育つか楽しみです。」

また、約5カ月間、毎日家庭から出る生ごみをダンボールに入れ続けたことにより、生ごみを減らした効果も実感しています」と村田さん。



●手稲区役所でも始めてみました

手稲区役所でも職員が有志で生ごみの堆肥化に取り組みしており、話を聞いてみました。「私たちも、職場から出るごみの減量を目指しています。この一つの試みとして、昨年からは職場内で生ごみの堆肥化を始めました。」

また、この取り組みにより、職員のごみ減量への意識付けにも役立てたいと考えています。

始めた当初は、少し臭いが発生するなどしましたが、よく中身をかき混ぜるなどした結果、臭いも少なくなり、堆肥も出来上がりました。

できた堆肥は、花壇などで使いたいと考えています」と試験的に始めたこの取り組み、最初は多少手間を感じたそうですが、最近は少しずつ定着してきたそうです。



●お問い合わせは・・・

今回紹介した、ダンボール箱を利用した生ごみ堆肥化を含めて、生ごみをリサイクルさせる方法を分かりやすく紹介したハンドブック「生ごみリサイクル」を区役所で配布しています。

また、「実際に始めてみたいので、方法を習ってみたい」「始めてみたけど、もう少しアドバイスがほしいな」とお考えの方には、講師の派遣も行っていますので、気軽にお問い合わせください。



▲ハンドブック「生ごみリサイクル」

●お問い合わせ先

手稲区市民部地域振興課
まちづくり担当係

☎(681)2400 内線219・227